

井上有一の書と戦後グラフィックデザイン

1970s-1980s

INOUE Yu-ichi's Calligraphy and Postwar Graphic Design
in 1970s-1980s

2025 年 9 月 6 日(土)～2025 年 11 月 3 日(月・祝)

前期：9 月 6 日(土)～10 月 5 日(日) 後期：10 月 7 日(火)～11 月 3 日(月・祝)

September 6, 2025 – November 3, 2025

入館料

一般 1,000 円 (800 円)、大学生 800 円 (640 円)、
高校生・60 歳以上 500 円 (400 円)、
小中学生 100 円 (80 円)

※ () 内は団体 10 名以上及び渋谷区民の入館料

※土・日曜日、祝休日は小中学生無料

※毎週金曜日は渋谷区民無料

※障がい者及び付添の方 1 名は無料

※リピーター割引あり

休館日

月曜日 (ただし 9 月 15 日、10 月 13 日、11 月 3 日は開館)、

9 月 16 日 (火)、9 月 24 日 (水)、10 月 14 日 (火)

主催・会場 渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14

電話：03-3465-9421 HP：<https://shoto-museum.jp>

特別協力 一般財団法人 井上有一記念財団

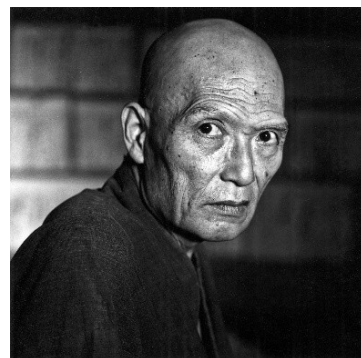
交通案内

●京王井の頭線 神泉駅下車徒歩 5 分 ●JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩 15 分

※駐車場はございません



① 井上有一《花》1957 年 墨・紙 個人蔵



② 操上和美《井上有一肖像》
1984 年 8 月 31 日撮影 個人蔵

脈動する毛筆、炸裂する墨液…。あまりにも強烈すぎる書の数々で知られる井上有一（1916－1985）の、没後 40 年を記念した展覧会を開催します。

1935 年に東京・横川尋常小学校に奉職して以降、生涯を教師生活と書に捧げた井上。彼は精いっぱい日常を生きる庶民の立場から、みずからの芸術をつくりあげようとした人物でした。1945 年の 3 月 10 日、つまり今から 80 年前には、勤務中の小学校でアメリカ軍の爆撃を受け一時仮死状態となったのち、多くの犠牲者のなかから奇跡的に息を吹き返します。井上の「戦後」は、戦争を辛くも生き延びたひとりの人間の道行きだったのです。

そして、この井上の特異な書業と来歴に鋭く反応したのが、ほかでもないグラフィックデザイナー達でした。70 年代を境に、名だたるデザイナーが井上作品を用いた印刷物に携わるようになり、80 年代以降、デザインや広告を経営戦略に取り入れた、いわゆるセゾン文化のなかで井上の書が積極的に紹介されてゆきます。先に述べた井上の書のイメージは、70 年代以降のデザイナーとのつながりを通じて、巧みにプロデュースされていったのです。

「戦後」が曲がり角に差し掛かるこの時期、一見奇妙な井上有一の書とグラフィックデザインの連帯は、いかにして成立したのか。そしてこの連帯が目指すものはいったい何だったのか。本展は、西武とパルコを擁する渋谷の地において、井上の書とデザインの関係を考えるものです。それは「戦後」という時代がどのように移り変わり、現在に至っているのかを振り返る確かな手がかりともなるでしょう。

序章 『花の書帖』とその周辺

井上有一とデザインの関係を考えるにあたって、まずは 1971 年に出版された彼の初の作品集『花の書帖』を取り上げます。

50 年代、欧米の抽象絵画ブームを背景に登場した頃を井上有一のデビューとすると、1971 年に出版された『花の書帖』は、井上の芸術家としての 2 度目のデビューを飾る本です。

この本の装丁に工夫を凝らしたのがデザイナーの福田繁雄（1932-2009）。独特のユーモア感覚あふれるデザインで知られる福田は、表紙と裏表紙に花をかたどった風変わりなオブジェを配置し、それぞれを木とビニールという異なった素材で制作しました。

この書籍の出版は、井上有一とグラフィックデザイナーとのコラボレーションの幕開けとなります。



③ 井上有一著・福田繁雄造本『花の書帖』
求龍堂 1971 年 個人蔵

第一章 そこで生きている書 1940 年代～1950 年代

井上有一は 1916 年に東京市下谷区の古道具屋の長男として生まれました。決して裕福ではない家庭に育った彼は、東京市本所区の横川尋常小学校で教師として働き、その後書家の上田桑鳩（1899 - 1968）に弟子入りしたのち、49 年にデビューします。

井上が活動を始めた 1950 年代の美術界では、書や生花、あるいは日本画などのジャンルにおいて、伝統美術の革新運動が巻き起こり、井上もこの潮流の流れに乗って注目を集めました。

第 4 回サンパウロ・ビエンナーレに出品され、評価された《愚徹》（1956 年）など、代表作をもとに初期のあゆみを概観します。



④ 井上有一《愚徹》1956 年 墨・紙
国立国際美術館蔵

第二章 技法としての書 1960 年代

この時期の井上の作品、とりわけ 60 年代前半に顕著なのが、「凍墨」と呼ばれる独自の墨の活用です。

筆の毛 1 本 1 本の通った痕跡がくっきりと浮かび上がり、躍動感に満ちた仕上がり^{にかわ}が得られるこの技法を用いるには、冷やして膠を固めなければいけません。そのため、井上は主に 11 月以降の冬にのみ制作をしていたといいます。

実はこの頃、井上は学校業務で多忙を極め、制作の時間が十分に取れなくなっていました。冬に制作期間を限ったのには、そのような事情も背景にあったものと思われます。

日常生活にまみれながら、それを起点として芸術の方法を探ろうとした井上有一。その苦労と工夫から生み出された書の数々を紹介します。



⑤ 井上有一《母》1961 年 墨・紙
京都国立近代美術館蔵

第三章 複製技術としての書 1970～1980 年代

1970 年代以降、井上有一は国内に活動の軸足を移し、個展や作品集の出版を重ねるようになりました。

しかし、何と言っても井上の名が広く世に知れ渡るには、没後の 1986 年に渋谷西武シードホールで開催された「生きている井上有一」展と、これに参加した浅葉克己(1940-)、井上嗣也(1947-)、糸井重里(1948-)、仲畑貴志(1947-)、操上和美(1936-)、木村勝(1934-2015)ら「生きている井上有一の会」の面々によるその後のデザイン展開が決定的な影響力を持ちました。

時はバブル景気華やかかなりしころ。素朴で普通人々の生活に寄り添った井上有一の書は、一転して経済的な豊かさの中で再解釈され、受け入れられ、その輝きを増してゆくことになりました。

一方、エディトリアルデザインの優れた仕事で知られる杉浦康平(1932-)は、井上有一の書を身体運動とそれが引き起こす文字の生命力という側面から深く追求し、数々の豪華な作品集を制作しました。

本章では、グラフィックデザインによって一気に大衆化する一方で、同時に伝説化してゆく井上有一の評価の展開を、数多くの作品やポスターとともに追いかけます



⑥ 井上有一《貧》1972 年墨・紙
京都国立近代美術館蔵



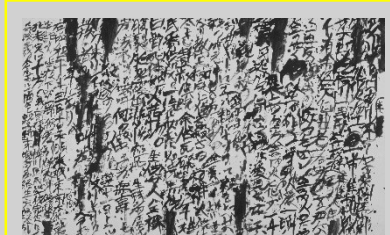
⑦ 井上嗣也「1986 年正月／
貧」ポスター 1986 年
AD・D：井上嗣也 A：井
上有一（ウナクトウキョ
ウ） C：糸井重里 PL：
對馬壽雄 ADV：パルコ
個人蔵

特集 戦争と井上有一

井上有一の創作の原点として極めて重要な出来事が、太平洋戦争末期の東京大空襲です。

1945 年 3 月 9 日深夜から 10 日にかけて、アメリカ軍の B-29 爆撃機約 300 機が東京の下町地域に絨毯爆撃を行いました。この空襲により井上有一の勤務していた学校も大きな被害を受け、彼自身も一時は仮死状態に陥ります。

この日、知人や同僚、そして自分の受け持つ生徒たちを含めた多くの人々が亡くなりました。このときの壮絶な経験をもとにして書かれたのが、大作《噫横川国民学校》(1978 年)です。戦後 80 年を数える今年、特別に本作をご紹介します。



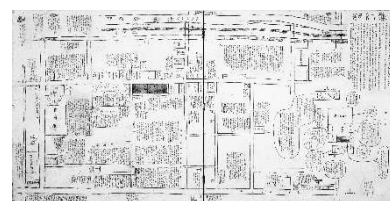
⑧ 井上有一《噫横川国民学校》墨・紙
1978 年 群馬県立近代美術館蔵

終章 遠い記憶一夢幻記

井上有一は 1985 年に肝硬変に伴う肝臓がんによって 69 才で亡くなります。

この数年前、死期を悟った井上有一によって手掛けられたのが、《夢幻記》(1979 年)です。まるで自らの記憶を掘り起こし、物質のうちに留め置こうとするかのように、幼少期の思い出がびっしりと細かい字で書き込まれています。

展覧会の締めくくりとして、《夢幻記》を中心に最晩年の作品をご紹介します。



⑨ 井上有一《夢幻記》ベニヤ板・油彩
1979 年 個人蔵

イベント情報

1 記念講演会：「うごく手」（事前申し込み制イベント）

日 時：日時：10月24日（金）午後6時～（約1時間半）

場 所：地下2階ホール

講 師：日比野克彦氏（アーティスト、東京藝術大学学長・岐阜県美術館館長・熊本市現代美術館館長）

* 無料（要入館料）* 定員 70 名（要事前申込、応募者多数の場合は抽選）

* 締切（必着） 10月3日（金）

* 申し込み方法の詳細は当館 HP をご覧ください。

2 レクチャーA：「モダンデザインの脱構築と感覚への傾斜、そしてポストモダンへ」

日 時：10月11日（土）午後2時～（約1時間半）

講 師：塚田優氏（評論家）

聞き手：木原天彦（渋谷区立松濤美術館学芸員）

場 所：地下2階ホール

* 直接会場にお越しください。定員 60 名（先着順）

3 レクチャーB：『書の解放』はいかにしてなされたか — 井上有一とポピュラーカルチャーの交流史 —

日 時：9月27日（土）午後2時～（約1時間）

講 師：木原天彦

場 所：地下2階ホール

* 直接会場にお越しください。定員 60 名（先着順）



⑩ 井上嗣也「COMME des GARÇONS '96-'97 AUTUMN WINTER DM」

1996年 AD・D：井上嗣也 A：井上有一（ウナクトウキョウ）CD：川久保玲
ADV：COMME des GARÇONS

その他のイベント【無料（要入館料）、事前申込不要】

4 学芸員によるギャラリートーク 9月13日（土）、28日（日）、10月19日（日）各日午後2時～（約40分）

5 館内建築ツアー 白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。

9月12日（金）、19日（金）、26日（金）、10月3日（金）、10日（金）、17日（金）、31日（金） 計7回。

各日午後6時～（約40分）

* 10月24日（金）の建築ツアーはございません。 * 各回定員約20名

※展覧会の会期・開館時間・イベント等が変更・中止となる場合がございます。
最新情報は当館 HP または SNS 等でご確認いただきますようお願いいたします。

◇次回展覧会のご案内◇

描く人、安彦良和

2025年11月18日（火）～2026年2月1日（日）

November 18, 2025–February 1, 2026

※会期中、展示替えあり



『ジャンヌ』より愛蔵版カバーイラスト原画
2002年3月発行 インク、水彩・紙 © 安彦良和

報道関係のお問い合わせ

広報担当（白石）：pr-sma@shoto-museum.jp 電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366

* 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。

* 画像近傍にはすべて「© UNAC TOKYO」のコピーライト表記を付記してください。

* 画像のご利用後、データは破棄してください。* 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。

* 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。* 掲載後、見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。